

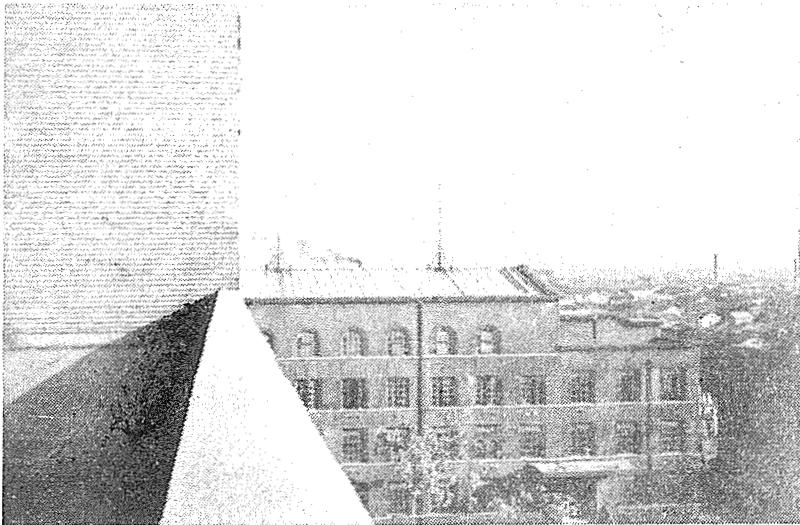
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, June 30th, 1955. No. 280.

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可  
昭和三十年六月三十日発行(毎月一回三十日発行)  
通巻第二八〇号

# 關西大學學報

昭和30年6月 第 2 8 0 号



(ある晴れた日に——天六学舎屋上)

關西大學學報局

## 學歌のエスペラント訳

橋田慶蔵

### Himno de KANSAJ Universitato

Poemo de Hattori Jošika  
Muziko de Jamada Kōsaku  
Trad. de Studentoj de K. U.

- (1) La admirinda atmosfero, paca la homar'.  
Impona tiel kaj ĝardena la natur'.  
Kantas junaj en la idealo de tagiga rug'.  
Staras ni al aŭroro al voj' de la viv'.  
Aŭdacu ni nur rekte por studado.  
Kaj de l' kor' al kor' nun resonu melodi'.  
Ho, vi Kandaj, ho, vi Kansaj, Kansaj Universitato,  
Kun longa histori'!
- (2) Ho, nia Universitat'! Vi staras kun instig',  
Kaj harmonio de scienco kaj praktik'.  
Lernas junaj kun la energio kaj pura spirit',  
Por konstru' de kulturo jam nun sen hezit'.  
Aŭdacu ni nur rekte por lernado.  
La ĉiujn tagojn sanan senton ĝuas ni.  
Ho, vi Kandaj, ho, vi Kansaj, Kansaj Universitato,  
Kun sankta la misi'!
- (3) Ho, nia Universitat'! Vi staras kun akcel',  
Por hardi nin aŭtonomio kaj liber'.  
Juras junaj ke la noblanimo forĝu studentar'n,  
Por ke ni laboradu mond' en estim'.  
Aŭdacu ni nur rekte kun laŭdado.  
Kaj sekvu nur fidele al laŭreat'.  
Ho, vi Kandaj, ho, vi Kansaj, Kansaj Universitato,  
Kun la aŭtoritat'!

(Provizore 1955)

本年（一九五五年）の夏、八月廿七、廿八日の両日に、千里山学舎に日本エスペラント大会を招請して、一つはエスペラント学術の為、他はわが関大のため、兩者の宣揚を目的として、学歌（自然の秀麗……）のエス譯を試みた。読者の内にはエス語を御存じの方も

あるうと思ひ、又同窓の皆様にも御批判を受けるため発表する。  
原作曲は山田耕雀、作詞は服部嘉香。両者共、健在で此の試みを喜んでゐる。日時の関係で、翻訳したものを直ちに、学生グリークラブの諸君に四部合唱で練

（附記）私は他の外國語に關係してゐないが、夫々の國語の訳や、エス語でも今回以上に改作、新作の發表があつてもよく、日時が許せば一般から募集するのもよいと考えてゐる。特にエス語に関し、諸資料を与えて下さつた御好意の人々及びN.H.K.の技術部の人々に深謝する。

（短大教授）

習して貰い、岩崎学長の挨拶のエス譯と共に、十三分半のテープにJ.O.B.Kで編輯録音をし、当日封切ることにした。

吹込に際し、原本の他に学生部に一つ、B.K.に一つのコッピーを残した。原本は大学の了解を求め、六月十一日、羽田発で篠田医師の好意を受けて、アメリカを最初にイタリー（万国エス大会がある）、欧洲の順に巡回する筈になつてゐる。右の録音は勿論標準デーピに吹き込んであるので、世界のどこでも使用出来るようになつてゐる。今頃はアメリカのどこかで、関大の自然の秀麗が聞えてゐるかも知れぬ。

思うに、関大的教授、職員、学生、卒業生が共通に持つてゐるものは、学歌が第一である。幸ひ関大の七十周年記念の何かに、是が聞かれることは大きな喜びである。

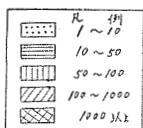
右に言うように、是に關係した関大エスペラント研究部やその他の人達は、日時や録音等のことで急いだこともあり、まだ多分に検討の余地もあると言へるが、取り敢えず、此の試みを一時之に落付け、一九五五年の習作として発表する次第である。

日本語の原作は彼は三十年の歴史を持つてゐて、卒業式や入学式には厳肅に歌われ、又折々の祝意を發揚するのに、立派な精神的文化財産となつてゐる。今回の中のエス譯が同じメロディの上で同じ精神を發揮出来たら、私の喜びは是に過ぎるものはない。

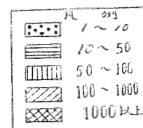
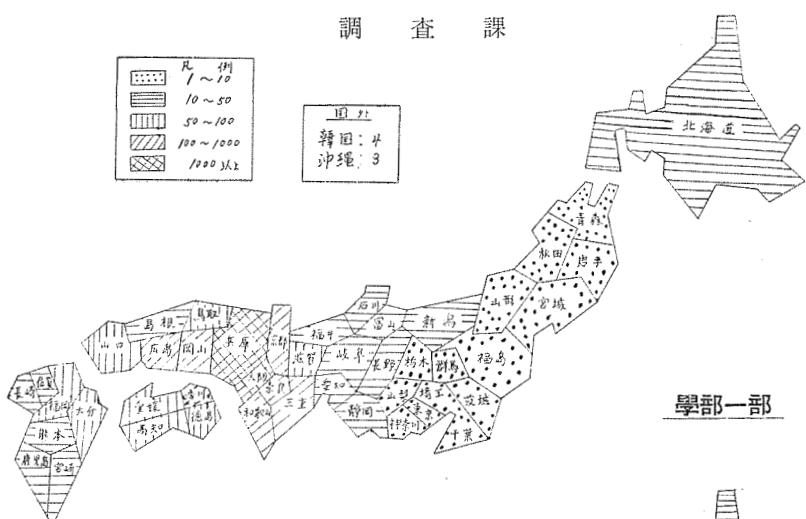
昭和30年  
5月1日現在

## 出身府県から見た 学部学生数の現状

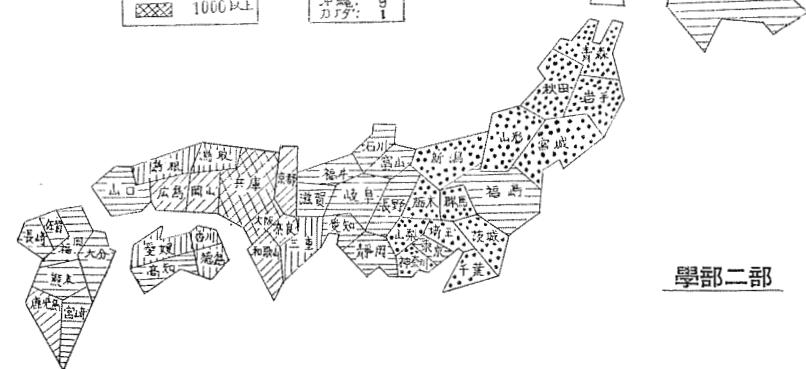
### 調査課



国外  
韓国: 4  
沖縄: 3



国外  
韓国: 7  
中国: 2  
沖縄: 9  
カナダ: 1



### 学部二部

関東、東北の低率は、地理的原因によるところもあつたが、過去四年間で、学生のなかつた群馬、千葉、栃木(二部は福島の抬頭)が一躍新潟とともに、また東京、青森が増加しているのは新しい現象といふべき、北海道の二・五倍と前年より増加したことと共に、あながち地理的制約にこだわる必要もないようにおもわれる。

分布図の如く、近畿以西が全般的に平均した数で増加し、殊に近畿以東の中南部、関東、東北地方が急激な抬頭傾向を示して来ているのは、本学の実施した特別奨学生制度、推薦入学制度及び出張試験等柔軟な募集及入学政策が生みだしたものといふべく、特に本学の特別奨学生制度が全国にわたつて在学生をもつにいたつたことは注目に値す。

(田中一郎記)

本学在学生の分布は、大阪を中心として以西にその基盤を有し、また近畿以東にも徐々にその密度を高めており、総体的にみて増加の傾向にあるといえよう。近畿では、大阪、兵庫に次いで毎年

低調の奈良が一・五倍とこれに迫り、他の府県も増加の一途を辿つてゐる。この奈良の飛躍と同じく、毎年増加傾向を示していた山口が一躍二倍となり、中國地方で最も低率だった島根が、鳥取、広島、岡山と同数になつて來

加しつつある。九州については、福岡で示しておいた山口が一躍二倍となり、高知が地道ながら増加しつつある。四国は、香川、徳島、愛媛の順で昨年の倍率となり、高知が地道ながら増加しつつある。九州については、福岡

で示しておいた山口が一躍二倍となり、高知が地道ながら増加しつつある。

ていることは、方策によつて増加する

が多くの、次いで大分が急増、これに接続している。この他に、佐賀、長崎、熊本の増加傾向と共に宮崎が上昇しつ

つある。

毎年比較的低率であつた中部では、福井、石川が佐賀と、又最低率の静岡が熊本、宮崎と並ぶ上昇傾向を示し抬頭しているのは目に値し、毎年平均した数を出している新潟、長野、岐阜、愛知、富山が増加していることは考へるべき点である。

関東、東北の低率は、地理的原因によるところもあつたが、過去四年間で、学生のなかつた群馬、千葉、栃木(二部は福島の抬頭)が一躍新潟とともに、また東京、青森が増加しているのは新しい現象といふべき、北海道の二・五倍と前年より増加したことと共に、あながち地理的制約にこだわる必要もないようにおもわれる。



意義、特に今回の文化祭が

今秋行われる創立七十周年

見せて第一日目を終了。

翌十九日(日)は日曜日とて梅雨空の

とスウェイング(KU Swing Orchestra)とが

記念事業の魁としての意義

うつし天候にも拘らず、さすがの産

兩日に亘る文化祭の掉尾を飾り、小田副

行委員長の挨拶があり、能

樂(能樂部)、コーラス(クリー

執行委員長の閉会の辞をもつて終了し

樂(能樂部)、永井執

経会館も超満員の盛況で、文化会各部共

一層の熱演、プログラムは弁論(雄弁会)

研究会)、ハワイアン(Kala Hawaian)、

Kannanas)、デキニイ(KU

能樂(能樂部)、コーラス(グリークラブ)、

Dexi Land Band)、ウエベタ

邦樂(邦樂部)、ブラスバンド(応援団吹奏

ハ(Cactus Country Boy's)、

スワイング(KU Swing Orc-

hestra)、文化会各部紹介

(文化会)、詩吟(吟詩部)、演劇(学園座)等

(文化会)、詩吟(吟詩部)、演劇(学

園座)、交響樂(交響樂團)等と順調に進

文化会各部がそ

れぞれ得意の出

し物で、日頃の

練習研鑽の業を

文化会もこの記念行事に参加

しその環として、六月十八、

十九の両日に亘り産経会館に

おいて、「創立七十周年記念

文化祭」を盛大に開催した。

十八日(土)は、関大作品「

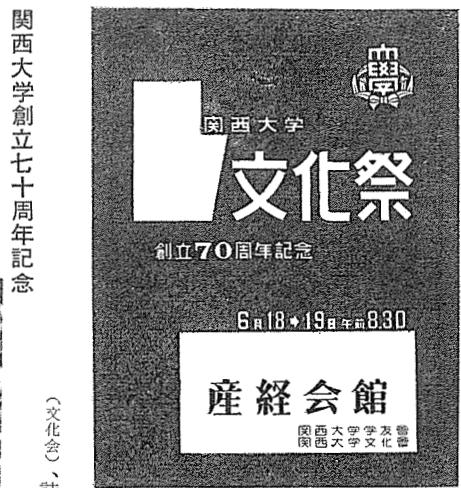
大学の生活」等の映画をトヅ

ブに、福井副執行委員長の開

会の辞に始まり、ボビュラー

ソングの旅(E.S.S.)、邦楽  
(邦樂部)、放送劇(放送研究会)、  
コント(Crazy Fives)等に続いて、岩崎

学長、白川理事長、石井教育後援会々  
長らが学生々活においてもつ文化祭の



## 関西大学創立七十周年記念

### 文化祭



### 文化会各部紹介

(文化会)、詩吟(吟詩部)、演劇(学園座)等

(文化会)、詩吟(吟詩部)、演劇(学

園座)、交響樂(交響樂團)等と順調に進

文化会各部がそ

れぞれ得意の出

し物で、日頃の

練習研鑽の業を

文化会もこの記念行事に参加

しその環として、六月十八、

十九の両日に亘り産経会館に

おいて、「創立七十周年記念

文化祭」を盛大に開催した。

十八日(土)は、関大作品「

大学の生活」等の映画をトヅ

ブに、福井副執行委員長の開

会の辞に始まり、ボビュラー

ソングの旅(E.S.S.)、邦楽  
(邦樂部)、放送劇(放送研究会)、  
コント(Crazy Fives)等に続いて、岩崎

学長、白川理事長、石井教育後援会々  
長らが学生々活においてもつ文化祭の

### 学術論文募集中

関西大学創立七十周年記念事業の一として左の規定により本

学学生諸君の学術論文を募集します。学生諸君の研究成果を発

表する絶好の機会ですから奮って応募せられることを希望しま

す。

関西大学創立七十周年記念行事実行委員会

#### 募集規定

一、応募者は関西大学各学部及び短期  
大学部の学生に限る。

一、論題は法学・文学・経済学・商学  
の四部門に関する随意の論題とす  
る。

一、原稿枚数は四〇〇字詰原稿紙三〇  
枚を限度とする。

一、〆切期日は昭和三十年九月二十日  
とする。応募論文の旨を明記して、

各学部教務課を通じ委員会宛提出す  
る。

一、優秀論文は印刷に付し全学の希望

み、ウェスタン(Cactus Country Boy's)  
とスウェイング(KU Swing Orchestra)とが  
兩日に亘る文化祭の掉尾を飾り、小田副  
執行委員長の閉会の辞をもつて終了し  
た。

兩日とも午前八時半より午後九時まで

盛沢山のプログラムに本学文化会各部の

全貌を遺憾なく發揮し、大学における課

外学生活動(extracurricular activities)

の健全な発展振りを一般市民に聞い、関

西大学創立七十周年記念事業の一として  
ふさわしくまた有意義に行われた。

校



校友バツチ

友

四月十九日（火）午後五時半より堂島の「とり幸」に於て、第三十二回例会を開催、幹事より松原市初代市長戦に出馬し僅少の差で次点となつた浦野氏に対し、新人で而も數多の強豪を向うに廻してあれだけの戦い振りを示した、その健闘と人望の篤さに心から敬意を表し、次期こそは必ず浦野市長の出現を祈つた。更に目下市議戦に再出馬中の荒川、大谷の両氏に、また村長戦に立候補の田坪氏に対し、健闘と必勝を祈つた。

今回新しく顔を見せた山内、北村両氏から学窓を出てからの人生行路の一端が披露されて大いなる喝采を博し、ひとときは懐旧談に花が咲き実に賑やかな愉快な歎刻であつた。名残りを惜みつゝ学生歌、学歌を高唱して次回を楽しみに、午後九時半散会。

守口支部春季総会  
新緑したゝる五月十五日（月）第一回  
春季総会を、新茶の香り高き宇治に於て  
岩崎学長、矢野常務監事を迎え、多數  
会員の出席を得て盛大に開会。始めて学  
長を迎える当支部は、ありし日の社会学  
の想い出の数々を語り合い、雄大なる関  
大ゲマインシャフトの確立を図れと絶叫  
し、盛会裡に午後六時散会。

京都支部総会

京都支部の再建は、京都府在住の校友有志の懇意であつたので、荒賀、山本、中野、橋本、大槻の各校友を中心て數度の有志会を開いた結果、去る五月十五日記の新役員を選出の上散会した。

卷之三

支 部 長	西 野	富 藏
副 支 部 長	荒 賀	勝 平
山 口 多 賀 敏	中 野	一 推

支  
部  
長  
副  
支  
部  
長  
西  
野  
富  
藏  
勝  
平  
荒  
賀  
山  
口  
多  
賀  
藏  
中  
野  
一  
堆

京 都 文 部 総 藝

関甲俱樂部總合

関甲俱楽部の春季総会は六月四日(土)南地宗右衛門町「清風荘」に於て開催、古市常務理事司会のもとに三島理事長より事業報告、渡野会計理事より会計報告があつてこれを承認、次いで西村治三郎氏議長となつて役員改選の件を附議し吉田八郎氏の動議によつて、議長を加えた七名の詮衡委員に附託と決定、よつて暫時休憩とし、その間を利用して先に記念撮影を終る。

幹事	幹事	幹事
橋本文宏	橋本文宏	橋本文宏
福田徳次郎	福田徳次郎	福田徳次郎
岩佐清三郎	岩佐清三郎	岩佐清三郎
牧山儀平	牧山儀平	牧山儀平
山本左一	山本左一	山本左一
安弘吉田鹿之助	安弘吉田鹿之助	安弘吉田鹿之助
園井安夫	園井安夫	園井安夫
金正三木秀雄	金正三木秀雄	金正三木秀雄
正男	正男	正男
久井事務理事	久井事務理事	久井事務理事
岡田徳次郎	岡田徳次郎	岡田徳次郎
荒賀勝平	荒賀勝平	荒賀勝平
小林経紀	小林経紀	高木俊博
西田秀吉	西田秀吉	中野一雄
政津見昭三	政津見昭三	犬養久雄
岩田清三郎	岩田清三郎	石山豊太郎
岩佐清三郎	岩佐清三郎	橋本文宏
宇田三郎	宇田三郎	溝淵敬之助
矢部一洲	矢部一洲	右城孝
余島弘一	余島弘一	佐藤順道
西野寛藏	西野寛藏	藤原房雄
吉田鹿之助	吉田鹿之助	安弘吉田鹿之助
小石与八郎	小石与八郎	市治邦夫
吉田未吉	吉田未吉	耕三
福田関次郎	福田関次郎	片倉邦夫
園井安夫	園井安夫	辻達雄
金正	金正	川口博
		佐々木六三郎
		三木秀雄
		憲夫
支那側	支那側	支那側
長谷川誠三	長谷川誠三	長谷川誠三
木下忠夫	木下忠夫	木下忠夫
青木四郎	青木四郎	青木四郎
五十川信富	五十川信富	五十川信富
牧山儀平	牧山儀平	牧山儀平
山本大規	山本大規	山本大規
仲西正明	仲西正明	仲西正明
山本左一	山本左一	山本左一
大規	大規	大規
三上	三上	三上
上	上	上
五十川信富	五十川信富	五十川信富
山口多賀茂	山口多賀茂	山口多賀茂
岩田清三郎	岩田清三郎	岩田清三郎
岩佐清三郎	岩佐清三郎	岩佐清三郎
宇田三郎	宇田三郎	宇田三郎
矢部一洲	矢部一洲	矢部一洲
余島弘一	余島弘一	余島弘一
西野寛藏	西野寛藏	西野寛藏
吉田鹿之助	吉田鹿之助	吉田鹿之助
小石与八郎	小石与八郎	小石与八郎
吉田未吉	吉田未吉	吉田未吉
福田関次郎	福田関次郎	福田関次郎
園井安夫	園井安夫	園井安夫
金正	金正	金正
野島清次郎	野島清次郎	野島清次郎
高堂俊彌	高堂俊彌	高堂俊彌
松本黒潮	松本黒潮	松本黒潮
草川葉蔭	草川葉蔭	草川葉蔭
木村伸真	木村伸真	木村伸真
粉家静雄	粉家静雄	粉家静雄
榮造	榮造	榮造
吉田健吉	吉田健吉	吉田健吉
高久直信	高久直信	高久直信
吉田未吉	吉田未吉	吉田未吉
福田関次郎	福田関次郎	福田関次郎
園井安夫	園井安夫	園井安夫
金正	金正	金正
笠屋	笠屋	笠屋
憲夫	憲夫	憲夫



# 關西大學創立七十周年記念 拡充資金募集趣意書

わが關西大學は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのであります。爾来六十有余年校友先輩の苦心と不斷の努力に依つて目覚ましい發展を遂げ、今や一万余の学徒を擁する私學の雄として、自他共に許す一大學園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、國家社会の進運に大きな寄与をなし得たことは、われわれの深く喜びとするところであります。學園發展のために尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く独立國家として出発しましたが、國家の前途は甚だ多難であります。わが国は今後、文化國家として世界文化に貢献すべきであります、またそれによつて友邦の信に応えなければなりませんが、そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本学は、大學の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声偽を揚げて参りましたが、真理の討究、学の実化という理想に向つて、益々邁進したいと思います。本学が新学制に基き、各大学にさきがけて、大學院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において将来の飛躍的な發展を意図したからに外なりません。

本学は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計画を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大學院、大学ホール、経済学部  
商學部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計画中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山文学部學舎の改築、二部学生を收容するための天六學舎の増築、学生に対する施設の一部として、千里山尚志館（学生食堂、學友会部室）の増改築等であります。これらは逐次工事に着手し或は着工準備中であります。また教授研究室は、現在六十五室を有するに至つたのであります。その大部分は、臨時的なもので、更に近代的設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には學園は全く面目を一新すると思います。

こうした外観の整備と相俟つて、特に重要なものは、大學の真偽を決する教授陣容の充実であります。二十八会計年度においては教授十名、助

教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員の待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相当額の増俸を実施致しました。しかしながら現下の經濟状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。

教授陣容の充実と共に、研究用圖書の完備も大切であります。この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するもののみと考えられます。就中、學舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのであります。戦後の經濟的混亂により本大學法人の經理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず関係者各位その他の御援助により御醸出を仰がねばならぬ実情にあります。

大学の生命は不朽でありますが、學園の生々發展を希うためには、各々の學園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、學園の繁榮を念願する各位の御賛同を請い、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、學園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な發展を期し得ることを信じます。

何卒御協力の程切に願上げます。

昭和二十八年十一月

關西大學學長 岩崎朋吉一  
關西大學理事長 白川朋一  
關西大學學長 岩崎朋吉一  
關西大學理事長 白川朋一

## 創立七十周年記念事業學舎增改築概要

### 一、工事費總額約三億三千五百万円

(一) 千里山文学部學舎改築(鉄筋コンクリート造)

三階建 一千六百六十八坪 工費約二億六千四百万円

(二) 天六學舎増築(鉄筋コンクリート造)

五階建 三百七十八坪 工費約三千万円

(三) 千里山尚志館増改築(木造)二階建 三百二十一坪 工費約六百万円  
三階木造 三階建 七百八十五坪 工費約三千五百万円